

# 令和4年度 第15回 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール 作文の部『審査結果の講評』

今年度は、作文の部で小学校から46編、中学校から14編、合計60編の応募があった。昨年度に比べ61編少ない応募数であった。世界規模で起こっているコロナ禍で従来の生活様式を改める等、大きく揺れ動く中で、教育現場でも例外ではなく、授業や学校行事等に大きな支障をきたしている。そのような困難が多々あった中で、応募してくれた子ども達をはじめご指導いただいた関係各位に心より感謝したい。

厳正に審査した結果、小学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選5名が受賞した。また中学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞2名、入選2名が受賞した。

この「児童・生徒の平和に関する図画・作文コンクール」は、第一に「歴史の実相を次の世代へ正しく継承し、平和を尊ぶ心を育てること」、第二に「作文を書くという創作活動により、平和メッセージを発信する」という2つの趣旨で実施されている。

戦後77年の歳月が経った今、戦争体験者が高齢になり、「語り部」の方々の減少にともない歴史の実相を伝承することが厳しい状況にある。だからこそ、本コンクールが、「平和行政推進事業」の一環として企画される意義は極めて大きく、作文の内容にもその趣旨が活かされ、児童・生徒の平和を希求する思いが伝わる作品が多かった。さらに、これからの社会を生きていく上でとても大切な「表現力」の育成に資する貴重な機会となったことも高く評価したい。

作文審査については、表記の正しさ、文章の流れ、要旨の明確さの三点を審査基準に学年の発達段階等も考慮しつつ、慎重かつ丁寧に審査し、下記のとおり講評する。

## 1. 小学生の部

- (1) 沖縄は日常生活や身の回りの環境を通して、今も尚戦争を感じることもある。その中から、疑問に思ったことをインターネットや図書館、平和学習での学びを通して、考えたことや自分にできることを素直に自分の言葉で表現している作品が多かった。
- (2) 読谷村が「平和行政推進」の一環として取り組んでいる本事業。村内小中校への更なる参加に期待したい。

## 2. 中学校の部

- (1) 昨年より出品数が半減している。趣旨を踏まえ更なる取り組みを期待する。
- (2) 「ひめゆり学徒隊から知る」「一日一日を大切に」「過去を見つめて」「平和な世の中を目指して」「争いのない未来へ」「戦争を2度と繰り返さぬために」「沖縄の歴史」等、平和学習で学んだことやロシアのウクライナ侵攻など世界で勃発している戦争の映像をマスメディアでみることにより自分の日々の生活の中で生じていることと関連付け、いろいろな視点から、平和について深く考え真剣に取り組み、自分の考えがはっきりまとめられている。表現力が高く、文章力もあり自分自身の意見がしっかり述べられていて恒久的な平和な世界を構築していくんだという固い決意が見られる。
- (3) 戦後77年が経過し、戦争体験者が少なくなる中、学校教育で平和学習について積極的に取り組み社会で起こっている様々な出来事に常に興味を持ち自分の考えを友達や家族に話したりすることの大切さを私たち大人は児童生徒に理解させ温かく見守り純粋な援助を与えなければならないと考える。